

の関心の高さが感じられた。どのセッションも今後のリハビリテーション医療の展開や発展のために重要なテーマであり、どの演者の発表も新たな展開や発展を感じる興味深いものであった。

3日間に亘り開催された総会も、井村会頭より「健康社会宣言2015関西」が提言され閉会した。閉会式では、日野原重明先生の記念講演「日本における高齢化と真の健康社会」と京セ

ラ株式会社の稲盛和夫氏の閉会講演「医学と倫理—利他の心で世のため人のために尽くす—」が行われた。日野原先生は、103歳になってなお新しい挑戦を続けており、その力強さに大変驚かされた。また、稲盛氏は医学・医療には技術や知識だけでなく、哲学が必要であり「利他の心」の重要性を示され、大変感銘を受けた。次回、30回日本医学会総会は4年後に名古屋で開催される予定である。

第1回京都リハビリテーション医学研究会学術集会 開催報告

京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学 三上 靖夫

平成26年にリハビリテーション医学に関する研究と教育を目的とした京都リハビリテーション医学研究会が設立されました。それまで10年間活動してきた京都リハビリテーションフォーラムを前身としています。本研究会の第1回学術集会が、久保俊一先生(京都府立医科大学大学院 教授)を会長として、平成27年2月7～8日の2日間にわたりウェスティン都ホテル京都で開催されました。

本学術集会では、テーマを「リハビリテーション医学の基本とトピックス」とし、リハビリテーション領域で日本を代表する先生方にご講演をいただきました。特別講演では日本リハビリテーション医学会理事長の水間正澄先生にご講演をいただきました。7つの記念講演、3つの教育講演、2つのランチョンセミナーでは日本リハビリテーション医学会の役員の方にご講演をいただきました。シンポジウムでは、近畿で活躍されている先生方に超高齢社会におけるリハビリテーションの役割について討論をしていただきました。また、ポスターセッションには、運動器のリハビリテーション、脳血管リハビリテーション、がんのリハビリ

テーション、摂食嚥下のリハビリテーション、内部障害のリハビリテーション、回復期・生活期のリハビリテーション、およびリハビリテーションにおける新しい試みなど幅広い領域から41演題が集まり、活発な議論がなされました。さらに、実践的なハンズオンセミナーとして「ロボットスーツHAL」および「心臓リハビリテーション心肺負荷試験(CPX)」を開催しました。初めてこれらの機器を目にされた先生も多く、実際に触れて理解を深めることができましたと大変好評でした。学術集会の締めくくり近畿地方会、および京都府リハビリテーション教育センターと連携し、「ロボットリハビリテーション」についてこの分野を代表する日本リハビリテーション医学会副理事長の才藤栄一先生、同理事の島田洋一先生にご講演をいただきました。全国から600名をこえる多くの方々のご参加をいただき、成功裏に終えることができました。ご協力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。なお、本学術集会のプログラムは研究会のHP上でご覧になれます。 <http://www.kyoto-rehabili.jp/>



会場風景(開会の辞 久保俊一会長)



運営スタッフ一同